

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2021年 第51・52週（12月20日～1月2日）

今週のコメント

～感染性胃腸炎～ 手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎 今後の動向に注意」

第51週と第52週をあわせて報告する。第52週は年末年始のため医療機関の診療実日数の減少を考慮する必要がある。

第51週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は2,888例であり、前週比7.6%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、RSウイルス感染症・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱・突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ12.07、0.94、0.38、0.26であった。

第52週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,223例であり、前週比57.7%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、RSウイルス感染症、突発性発しん、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ4.92、0.38、0.31、0.17、0.13であった。

感染性胃腸炎は前週比59%減の970例で、大阪市西部8.10、大阪市北部6.86、泉州6.55、南河内6.19、北河内5.19である。

手足口病は前週比60%減の74例で泉州0.95、三島0.75、北河内0.50であった。

RSウイルス感染症は前週比19%減の61例で、大阪市北部0.86、南河内0.81、大阪市東部0.79である。

咽頭結膜熱は前週比51%減の25例で、大阪市西部0.30、大阪市東部0.29、泉州0.20であった。

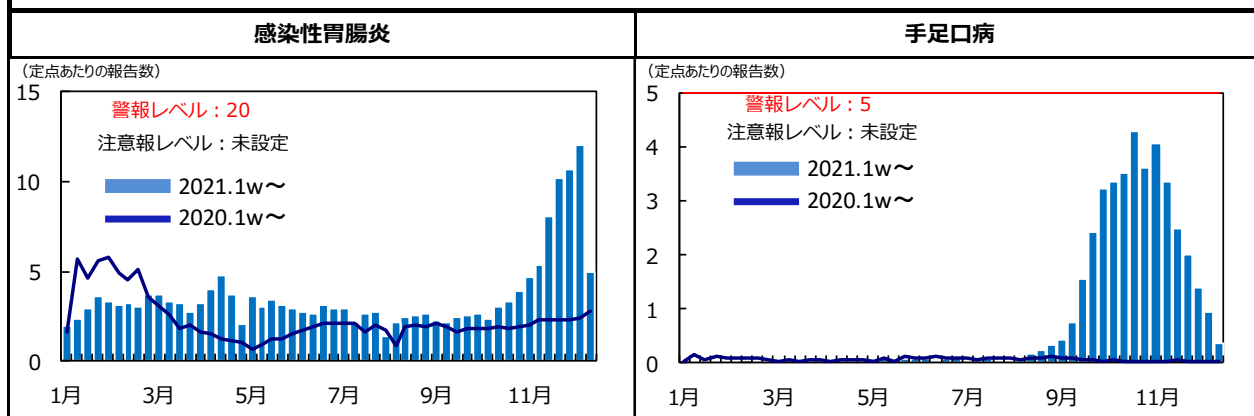


表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2021年 第52週12月27日～1月2日）

第52週の順位	第51週の順位	感染症	2021年 第52週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2020年 第52週の 定点あたり 報告数	2021年第52週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	4.92	59%減	2.76	1歳_16%
2	2	手足口病	0.38	60%減	0.02	1歳_34%
3	3	RSウイルス感染症	0.31	19%減	0.07	1歳_38%
4	5	突発性発しん	0.17	33%減	0.26	1歳_59%
5	5	咽頭結膜熱	0.13	51%減	0.26	1歳_52%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.00	50%減	0.03	3歳(1例)_100%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

第52週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～ 基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

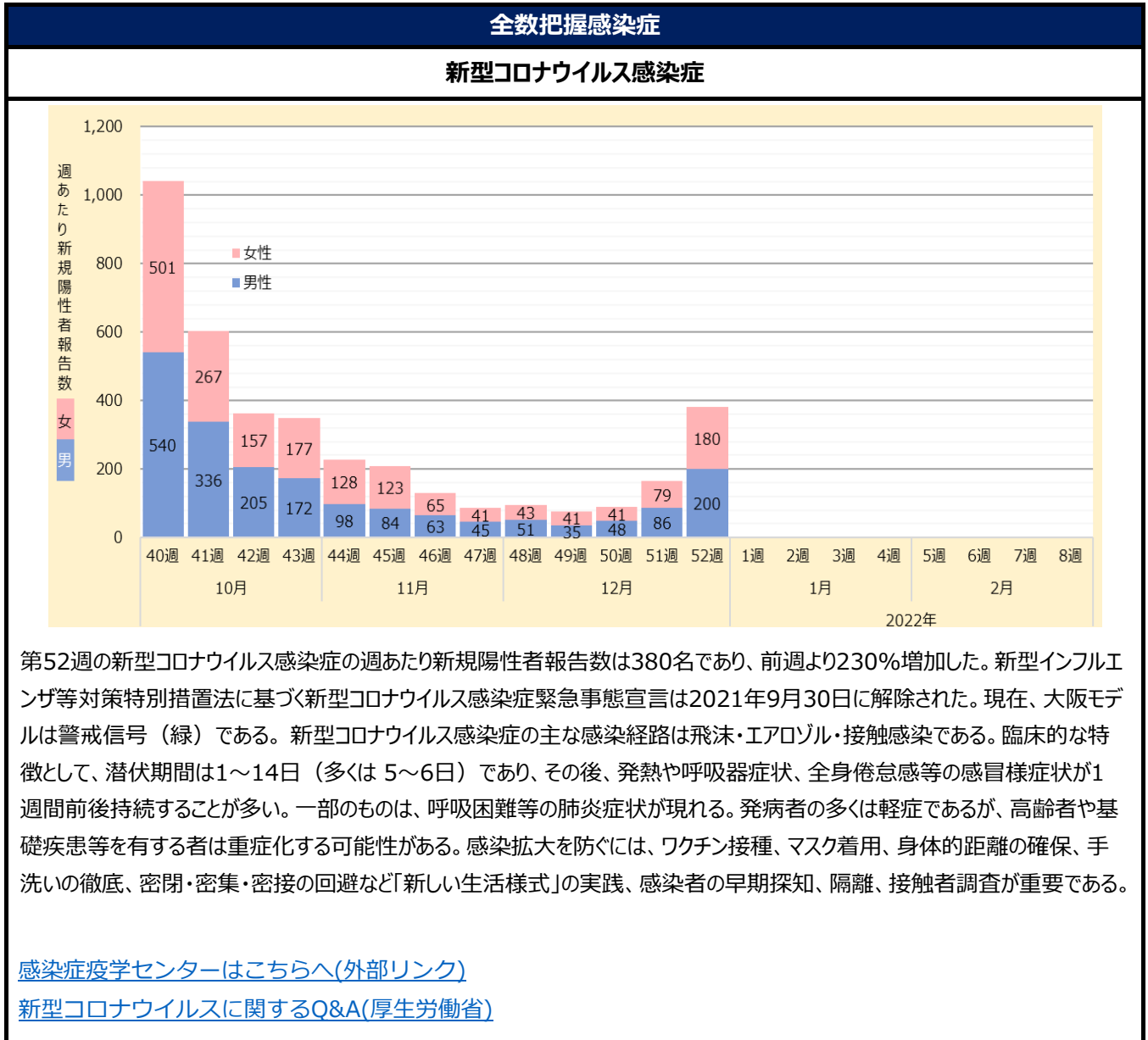


表2. 大阪府全数報告数（2021年 第52週12月27日～1月2日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
5類感染症	カルバペナム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	1							182
	後天性免疫不全症候群	1							1	104
	梅毒	2		1					1	847
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	380	2020年1月以降累計 203,917							
結核 (2021年11月分)	結核 新登録患者数：81名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 30名) (府内累積報告数 1,065名、内 肺・喀痰塗抹陽性 412名)									

(2022年1月4日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。](#)